

1 音楽科で目指す生徒の姿

感性と知性を往還させ、友と考えを伝え合いながら音楽表現を追求する生徒

2 音楽科の研究テーマ

音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方

3 研究テーマの具現に向けて

題材「旋律が重なり合っていくおもしろさを味わおう」（令和6年7月・2年）では、テクスチュア（旋律の重なり）を視点として『フーガト短調』を聴き深め、よさや美しさを味わう学習を構想した。そこでは、直前に行った題材「構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルをつくろう」（令和6年6月・2年）で得た、テクスチュア（音の重なり）の視点に着目して、曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、楽曲のよさや美しさをまとめる活動を位置付けた。K生は、『フーガト短調』の冒頭を初めて聞いた際、「リズムアンサンブルみたいに、だんだんと音が重なっている。」と発言した。K生は、M生と意見交換をしながら聴き深める中で、同じ旋律がタイミングや音の高さを変えながら何重にも重なっていることに気付き、題材末には『フーガト短調』の魅力として、「多彩な重なり方による響きの豊かさが魅力だと思う。」と記述した。さらに、まとめの中で、クラスや学年で取り組む合唱曲についてもテクスチュア（音の重なり方）がどのようなになっているか知りたいと発言し、テクスチュアの視点を生かして音楽表現を創意工夫していこうと意欲を高めた。K生は、その後、音の重なり方や全体の響きなどの音楽の構造に着目しながら合唱の表現を追求するなど、音楽表現を創意工夫していくことができた。このようなK生の姿となった要因として、表現と鑑賞のそれぞれの領域でテクスチュアという要素への理解が深まったことで、『フーガト短調』の曲想と音楽の構造との関わりについても理解が深まり、他の表現教材の構造についても知りたいという意欲につながったと考えられる。領域や分野を横断させた単元展開を構想することで、音楽科の研究テーマの具現につながっていくことが見えてきた。

そこで、題材「テクスチュアに着目して追求しよう」（2年）の題材において、「テクスチュア」を視点として、音楽表現の追求をしたり、楽曲の魅力に迫ったりする学習を構想する。そこでは、創作・鑑賞・歌唱について、テクスチュアを思考判断の拠り所とするユニット題材を組み、他領域や他分野で得たテクスチュアの視点から、表現を追求したり楽曲への理解を深めたりしていく展開を位置付ける。生徒は、創作や鑑賞の学習を通して「音の重なり」「和音の響き」「音楽の縦と横の関わり」などのテクスチュアの視点から、「パート同士がどのように重なり合い、関わり合っているのか」や、「全体でどのような響きがするのか」といった音楽の構造について理解を深めていくだろう。このような視点を基に、題材末の歌唱では、パート同士の多様な重なりや関わりが特徴的なアカペラ合唱曲である『ふるさと』について、そのよさや美しさを生かす歌唱表現を、テクスチュアを視点に創意工夫していくことができるだろう。

以上のような学習を積み重ねていくことで、音楽科の研究テーマを具現し、目指す生徒の姿に迫ることができると考えた。

4 題材名・学年 「テクスチュアに着目して追求しよう」・2年

5 音楽表現を創意工夫する力を高めるための題材の手立て

- ・創作・鑑賞・歌唱について、テクスチュアを思考判断の拠り所とするユニット題材を組み、他領域や他分野で得た視点を生かしながら、表現の追求や楽曲への理解を深めていく展開を位置付ける。

6 題材展開 「テクスチュア」を視点として、音楽の表現を追求したり、楽曲の魅力に迫ったりする学習

※本題材はユニット題材であるため、創作・鑑賞と歌唱（本時を含む）を分けて展開を記載する。

※本題材で主に扱うテクスチュアの視点である「音の重なり」「和音の響き」「音楽の縦と横との関わり」については、以後「重なり」「和音」「関わり」と表記する。

（１）創作、鑑賞について 題材展開

段階	◆ねらい	主な学習内容	時間
導入	◆『Are you sleeping?』の多彩なテクスチュアに触れながら、題材の学習問題「テクスチュアに着目して演奏や鑑賞をしよう。」を設定する。 ◆【創作】構成や「テクスチュア」に着目して、『野菜の名前』によるリズムアンサンブルの創作表現を創意工夫する。	・『Are you sleeping?』の多彩なテクスチュアに触れながら、題材の学習問題「テクスチュアに着目して演奏や鑑賞をしよう。」を設定する。 ◆【創作】構成や「テクスチュア」に着目して、『野菜の名前』によるリズムアンサンブルの創作表現を創意工夫する。 ・構成（反復・変化・対照など）に着目し、各自が選んだ『野菜の名前』の反復・変化のさせ方を考えて、2小節のリズムパターンをつくる。	1
展開	◆【鑑賞】「テクスチュア」に着目して、『フーガ短調』の構造と曲想の関わりについて理解を深め、よさや美しさを味わって聴く。	・構成やテクスチュア（重なり、関わり）に着目し、グループでリズムパターンの重ね方や登場の順番を考え、リズムアンサンブルの表現を考える。 ・各自が考えた表現のために必要な技能（重ね方・組合せ方など）を身に付けて、リズムアンサンブルを完成させる。発表会で友と作品を鑑賞し合い、重なり方や組み合わせ方の多彩さを感じ取る。 ・小題材の学習を踏まえ、身に付いたこと感じたことをまとめる。その時点でテクスチュアについて理解していることやその効果について「題材の振り返りシート」にまとめる。	2
	◆【鑑賞】「テクスチュア」に着目して、『フーガ短調』の構造と曲想の関わりについて理解を深め、よさや美しさを味わって聴く。	・テクスチュア（重なり、和音、関わり）に着目して聴き、それらの要素の働きによる効果を感じ取る。 ・小題材の学習を踏まえ、曲の魅力についてワークシートにまとめる。さらにその時点でテクスチュアについて理解していることやその効果について「題材の振り返りシート」にまとめる。	2

図1 生徒ワークシートの例

（２）歌唱について

小題材名「声が響き合う美しさを味わいながら合唱しよう」

小題材の目標

※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができる。【A(1) イ(ア) ウ(イ)】
- (2) テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、『ふるさと』にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。【A(1) ア】
- (3) テクスチュアの特徴と曲想との関わりに関心をもち、アカペラによる合唱の響きを楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。

小題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	思 テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、『ふるさと』にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 テクスチュアの特徴と曲想との関わりに関心をもち、アカペラによる合唱の響きを楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。

題材展開

段階	◆ねらい ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」		評価	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆テクスチュアの特徴に関心をもち、曲想との関わりについて理解する。		○態	1
	・単旋律版と合唱版を比較しての印象や気づきを伝え合う場を設ける。アのような意見から題材の学習問題を設定する。	ア 前半部分は、全パートが同時に重なっており、主旋律はソプラノでそれ以外のパートが支える感じだった。主旋律は途中で男声に交代し、ソプラノは「Lulala～」というオブリガートを歌っていた。その部分がとても神秘的で印象に残った。		
展開	題材の学習問題：テクスチュアの特徴を生かして、『ふるさと』にふさわしい表現を追求しよう。		○知 ○思	1
	・パート毎に音程を確認し、合わせの合唱に向けて練習するように促す。	イ 主旋律以外のパートは、歌いづらいが主旋律と合わせたときにどんな響きになるのか、気になる。男声が主旋律の時の、女声のオブリガートは男声と全然違った美しさがあると思った。		
	◆テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌い表すか思いや意図をもつ。			
終末	・エのような意見を取り上げ、音で例示しながら多声的に関わっていることを確認し、題材の学習課題を設定する。	ウ 9小節からの男声が主旋律の部分は、女声が男声の呼びかけに答えるように重なったり、男声と縦の線がずれるように女声だけが独立した動きになったりしている。それによって、この部分の晴れ晴れとした感じが表現されていると感じた。	○技	1 (本時)
	題材の学習課題：パート同士の関わり方に着目して、テクスチュアの特徴が生かされるような歌い方を考えて歌おう。			
	・各自が学習課題に対する考えを記入するように促し、その後、共有する場を設ける。	エ 9小節からの女声のオブリガートは、クレシェンド生かして膨らめるように歌うことで、心情の高まりが表せそうだが、そこに重なる主旋律の男声の「めぐりて」が聴こえるようにしたい。		
終末	◆全体の響きや各パートの声などを聴きながら、他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌う。		5分 20分 10分 15分	1 (本時)
	◆ユニット題材を振り返り、「テクスチュア」についての理解の深まりをまとめる。			
	本時のねらい：各自が必要に応じて練習形態を選択して追求したり、全体の響きを意識しながら歌い合わせたりする活動を通して、思いや意図を実際の歌唱で表すことができる。			
	・追求の見通しがもてるよう、考えを共有する場を設ける。 ・各自がよりよい『ふるさと』を作り上げるために必要だと考える練習形態（個人・グループ・パートなど）を選んで表現を追求する場を設ける ・カやキのような気づきや考えを共有し、実際に歌い試しながら、全体で合唱としての表現を追求する場を設け、録音を通して仕上がりを確認したり、身体の使い方や発音の仕方等を助言したりする。 ・小題材の学習を振り返り、全員で通して歌う場を設ける。 ・題材の学習を通して、新たに分かったことや、今後に生かしたいことを「題材の振り返りシート」にまとめるよう促す。その際創作の映像や、フーガ演奏映像、合唱の録音などを流す。	オ 9小節からのオブリガートをどれくらい膨らめるように歌えばよいか、男声と合わせながら考えたい。 カ 男声と合わせてみて、オブリガートが男声の「めぐりて」を潰してしまうので、もう少しクレシェンドのかけ方に工夫が必要だ。クレシェンドの頂点が2声でずれていることに着目したい。 キ ソプラノは11小節の旋律の頂点の部分をやや時間をかけてゆっくり頂点に至るイメージで歌うことでやわらかいクレシェンドができそう。一方で男声は「めぐり」の部分フレーズの最高音を意識することで、女声の旋律線を生かしつつ、主旋律を強調することができそう。 ク 他のパートとのバランスやつながり方を考えて歌うことで、この部分のパートの重なりや関わりを生かすことができ、響きの美しさを実感することができた。 ケ 多くの曲がリズムアンサンブルのような「音の重なり」やバッハのフーガのような「パート同士の複雑な絡み合い」でできていることが分かった。私たちにとって身近な合唱でもこのような「テクスチュア」の特徴に着目することで、際立たせたいパートを強調したり、パート間のバランスを調整したりして、その曲らしい響きを追求していくことができそう。		



図2 生徒ワークシートの例